

生物生産システム学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

世界的に急激な人口増加によって食料生産の重要性が増すなかで、現代の日本農業は、農地の荒廃や生産者の減少など、多様で解決困難な多くの問題を抱えています。本専攻は、生物の持つ多面的機能を活かし、生産と環境の保全を両立させ、持続的農業生産を可能にする新たな技術の開発とそのシステム化を目指した高度な教育研究を通じて世界的視野で社会に貢献できる人材を養成することを理念としています。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

生物の有する多面的機能を活かした生産性の高い持続的農業技術に関する高度な専門知識を理解、修得している。

2. <思考・判断>

地域社会や国際社会における食料、資源、環境に関連する諸課題の原因について、循環型社会構築の観点から論理的に説明し、解決策を見出すことができる。

3. <関心・意欲、態度>

講義のほか実験と実習による、理論と実践を一体化した実学的教育を通じて、農業生産現場の諸問題を深く追求し、その解決に積極的に取り組み、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力に習熟している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

生物の有する多面的機能を活かした、作物や家畜の生産性の高い持続的農業技術に関する専門知識を理解、修得し、これらに関連する英語の基礎的な表現力、読解力を有している。

2. <思考・判断>

地域社会や国際社会における食料、資源、環境に関連する諸課題の原因について、循環型社会構築の観点から分析・考察し、論理的に説明することができる。

3. <関心・意欲・態度>

農業生産現場の諸問題に強い関心を持ち、研究者や専門的な職業人として、その解決に積極的に取り組みたいという意欲と使命感を持っている。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果について、的確に説明するための表現能力を有している。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

本コースは、学部と一貫して、生物の有する多面的機能を開発・利用して、生産性の高い持続的農業を構築するために、農業資源生物に関連した専門的な知識を、オーソドックスな生物学の他に分子生物学も含めて学びます。講義のほか、農場実習や実験を通して、理論と実践が一体化した生物生産についての高度な専門知識と技術を学びます。

施設生産システム学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

植物工場をキーワードとする新たな食料生産システムに関する知識・技術を有し、施設園芸、植物工場、種苗、食品、情報などの関連分野で技術者、研究者として活躍できる人材、または、これからの社会においてこれらの高度な知識を応用し発展させることのできる人材を輩出していきます。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

植物工場をキーワードとする新たな食料生産システムに関する高度な知識・技術を有し、以下に示すような、環境、植物または自動化に関するより広範囲の知識・技術を修得している。

A. 園芸施設や植物工場などの食料生産施設における環境制御、計測・制御システム、生産から流過程にわたる情報化、さらに居住空間におけるグリーンアメニティに関する高度な専門知識を有し、高度な技術を修得している。

B. 植物育種と種苗生産、植物生理と生態、植物生体計測に関する高度な専門知識を有し、高度な技術を修得している。

C. 食料生産プロセスの機械化とロボット化、機械装置の設計と管理、人間－機械系と人間－環境系、および流過程のポストハーベスト・テクノロジーに関する高度な専門知識を有し、高度な技術を修得している。

2. <思考・判断>

循環型社会の構築の観点から、地域社会や国際社会における食料、資源、環境に関連する諸課題の原因を論理的考察に基づいて説明し、有効な解決策を見出すことができる。

3. <態度・関心・意欲>

上記の諸課題を解決するため、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力と高いコミュニケーション能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

大学で履修した主要教科・科目について、基礎的な知識を有しているおり、さらに施設生産システム学の専門分野について一定以上の知識を有すること

2. <思考・判断>

ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができ、実践できること。

3. <関心・意欲、態度>

地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題に関心を持ち、身に付けた知識をこれらの解決に役立てたいという意欲を持っている。特に施設生産分野における意欲が強いこと。

4. <技能・表現>

自分の考えを、日本語で他者にもわかりやすく表現できる。また、英語の読解力を有すること。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

人工的な栽培環境による食料生産の場として代表的な植物工場は、種苗生産、環境制御、植物生理および生態、機械化、自動化、収穫後の流通、生産から流通過程に互る情報化など多様な専門領域によって支えられています。施設生産システム学専門教育コースは、このような複合領域である植物工場を対象に、高度な専門職業人と見識の幅広い研究者の養成を目的として教育に当たります。

環境、植物または自動化に関するより高度な授業を提供し、1年生においては前期に基礎を、後期に応用を中心に、2年生においては実験を中心としたカリキュラムを提供していきます。

資源・環境政策学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

日本及び世界が直面している農林水産業の諸問題とそれらの問題の解決策について専門的な教育研究を行うとともに、グローバルな視野を踏まえ、かつ地域に根ざした解決策を提示できるだけの高度な学問的素養とマネジメント精神を備えた人材を養成していきます。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

経済学、経営学、社会学、法律学、行政学等の社会科学の高度な知識を有している。

2. <知識・理解>

フィールド調査、討論、政策立案等に必要の高度の技術を修得している。

3. <思考・判断>

循環型社会構築の視点から、地域社会や国際社会における食料、資源、環境に関する諸問題の起こる背景や原因について高度な課題設定能力と分析能力を有し、とるべき政策を提言することができる。

4. <関心・意欲・態度>

上記の諸課題を解決するため、協調性と高い倫理性・使命感を持って、自律的・継続的に行動することができる。

5. <技能・表現>

自らの研究プロセスや研究成果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

食料・資源・環境問題および社会科学の基礎的な知識を持ち、これらに関連する英語の読解力を有している。

2. <思考・判断>

食料・資源・環境問題に対して、自分の力で研究課題を設定し、幅広い視点から考察・分析をすることができる。

3. <関心・意欲、態度>

食料・資源・環境問題に強い関心を持ち、専門的な職業人や研究者として、これらの解決に役立ちたいという意欲と使命感を持っている。

4. <技能・表現>

食料・資源・環境問題についての自分の意見を、論理的かつ明瞭に表現できる。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

本コースのカリキュラム・ポリシーは、農学と社会科学を融合した視座から、食料・資源・環境をめぐる困難な諸課題に対して、グローバルな視点を踏まえ、地域に根ざした学問的素養とマネジメント精神をもつ専門的職業人を養成することにあります。学生自らが課題を発見し、解決できる力を養うため、食料・資源・環境に関連する専門科目や演習科目を体系的に配置し、農山漁村をめぐる実践的諸問題を的確に捉え、高いレベルでの解決策を提示できる人材の養成を目指します。専門科目では、食料・資源・環境問題をめぐる社会的な構造を把握し、その解決に資するための専門的知識を学び、高い課題設定能力と分析能力を身につけます。演習科目では、研究の進捗状況、成果を発表するとともに、様々な視点からの議論を行い、高いプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけます。以上の学習の総まとめとして、修士論文を作成します。

応用生命化学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

教育理念

本コースは、分子レベルでの研究と、生体レベルでの研究とが密接に連携する事によって、生命現象の解明と生物資源の食品科学、生命科学、分子科学、医薬科学等の分野への利用を目指した教育、研究を行ない、これらの領域で活躍できる人材を養成する事を教育の理念としています。

教育目標

1. 微生物、植物、動物の生体に由来する遺伝子、タンパク質(酵素)、低分子有機化合物について、構造解析、生合成、化学合成、分子間相互作用解析、酵素機能評価、細胞による機能性評価等、分子レベルでの研究の高度な専門知識と技術を習得させる。
2. 機能性分子の生体内における作用の解明、有用分子を生産する生物資源のスクリーニングと大量生産、環境浄化の機能性を有する生物資源の育種等、生体レベルでの研究の高度な専門知識と技術を習得させる。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

生物有機化学、栄養科学、生化学、微生物学、動物細胞工学、植物化学、遺伝子制御工学に関する高度な専門的知識、技術を修得している。

2. <思考・判断>

循環型社会の構築の観点から、地域社会や国際社会における食料、資源、環境に関連する諸課題を自ら発見し、原因を論理的に説明でき、解決策を提案することができる。

3. <関心・意欲・態度>

上記の諸課題を解決するため、協調性と高い倫理性をもって、自立的、継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考、判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

大学学部において履修した応用生命化学に関係する科目について、基礎的な専門知識と技術を有している。

2. <思考・判断>

応用生命化学に関する諸事象を専門的に考察し、諸課題を解決するために方策を提案できる。

3. <関心・意欲・態度>

応用生命化学に関係する諸事象に対して専門的な観点から強い関心をもち、食料・資源・環境などに関する諸問題を解決しようとする強い意欲をもっている。

4. <技能・表現>

応用生命化学の諸課題について、自分の考えや判断のプロセス、研究した結果について、日本語で論理的に説明することができる。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

本専門教育コースでは、有機化学、核酸・タンパク質の生体高分子や細胞の基礎的研究から食

品化学、遺伝子組換え、細胞培養、バイオリアクター等の応用研究に至るまで幅広い学問分野を教育の対象としています。学部で修得した応用生命化学の基礎に加えて、さらなる高度な専門知識・技能を習熟するために、生物有機化学、栄養科学、生化学、微生物学、分子細胞生理学、動物細胞工学、植物化学、遺伝子制御工学の各教育分野の教科科目を選択履修します。年次を通して応用生命化学特別実験及び同演習を履修し、応用生命化学専門教育コースの各教育分野に関連した課題について研究し、修士論文を作成し、成果を発表します。以上のカリキュラムによって、将来、化学産業や、食品産業、医薬品産業の分野で活躍できる研究者や技術者を養成するために高度な専門的教育を行います。

森林資源学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

教育理念

本専攻は、森林の有する物質資源と環境資源という二つの側面の調和を図り、地域、国家、世界規模で持続可能な人類社会の構築と維持に貢献しうる人材を養成することを教育の理念としています。

教育目的

1. 森林を理解し、これを客観的に記述・評価・分析するために必要な生物学・数理科学・社会科学の高度の知識を修得させる。
2. 森林資源の持続的循環利用のシステム化、途上国の荒廃した森林の修復、先進国における森林資源の安定永続的利用の計画、環境資源としての森林の機能解明に必要な先進的知識と技術を修得させる。
3. これら森林の修復・保全・有効利用を通じて人類の福祉に貢献できる人材を養成する。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

健全な言語および自然科学・社会科学の基礎の上に、森林資源の実態を知り、その利用・管理・保全・創生に関する高度な専門知識と技術を理解し、修得している。

2. <思考・判断>

循環型社会構築のため、資源・食糧・環境に関する地域および国際社会の諸課題を科学的・客観的に認識し、解決策を見いだすことができる。

3. <関心・意欲・態度>

協調性と高い倫理性に基づき、上記諸課題の解決に自律的・継続的に取り組むことができる。

4. <技能・表現>

自らの思考・判断のプロセスと結果を論理的に説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

大学学部で履修した主要科目について基礎的専門知識・技術を有している。

2. <思考・判断>

ある事象に対して基礎的専門知識に基づいた発見的考察を行い、事由の解明に必要な方法を見いだすことができる。

3. <関心・意欲、態度>

森林がどのように地域や国際社会の経済に関連し、環境の改善に役立つのかに関心を持ち、それを実現するための意欲がある。

4. <技能・表現>

自らの思考・判断のプロセスを正しい日本語もしくは英語で論理的に記述でき、他者にわかりやすく説明できる。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

森林に関する自らの問題意識を深め探求します。ここでの作業は研究というレベルに高められ、創造と発見の場となります。研究を行うに当たって、それが地球環境の保全と持続的な社会を構築するためにどのように位置づけられ、将来的な展望を持ち得るのかを自らのうちに明確化します。研究の成果を正確な英語もしくは英語で論文にまとめ、発表します。

地域環境工学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

教育理念

本コースは、学部と一貫して、農林水産業を行う「地域」の生物生産基盤と生活基盤の「環境」を、持続可能な状態に創造・保全・管理するため、主として「工学」的手法を駆使し、地域資源の活用により、自然と人間が調和した循環型社会の構築と地域社会並びに国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを教育の理念としています。

教育目的

1. 地球および地域の環境に調和した持続可能な生物生産活動と地域の活性化のため、農山漁村等の生物生産基盤の整備・開発に関する高度な専門知識と技術を習得させる。
2. 地域の生活環境を豊かな緑地・親水・生活空間として創造・保全するための計画・設計・施工・管理に関する高度な専門知識と技術を習得させる。
3. 人間を含むグローバルな生物生態環境を、「大地・水・太陽」の自然条件下において、より最適な状態にするための高度な専門知識を身につけた高等技術者及び研究者を養成する。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>
農山漁村地域の生物生産基盤を整備・開発するための高度な知識と技術を修得している。
2. <知識・理解>
農山漁村地域の生活環境を豊かな空間として創造・保全するための高度な知識と技術を修得している。
3. <思考・判断>
修得した高度な知識と技術を応用して、自然条件を最大限に活かしながら農山漁村地域の環境を適切に管理する方策を見いだすことができる。
4. <関心・意欲、態度>
地域環境工学に関する諸課題の解決のため、協調性、計画性、および高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。
5. <技能・表現>
自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための柔軟かつ高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>
地域環境工学に関する専門的な知識と技術を有している。
2. <思考・判断>
地域環境工学に関する諸課題を専門的かつ多面的に考察し、その解決のための方法を立案し、解決策を提案することができる。

3. <関心・意欲・態度>

地域環境工学に関する諸課題に対して専門的な見地から強い関心を持ち、協調性と高い倫理性をもって、解決策を考究したいという高い意欲を持っている。

4. <技能・表現>

自らの地域環境工学に関する専門的な思考・判断のプロセスや結果をわかりやすく説明するために、論理的なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を持っている。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

本コースでは、「大地・水・太陽」の自然条件下において、農山漁村地域の生物生産基盤と生活基盤を創造・保全・管理する、専門的な知識と技術を学びます。カリキュラムは、一般専門領域とテーマ別専門領域から構成されています。また、農山漁村地域の生物生産基盤と生活基盤における実際の問題に対する洞察力・観察力と同時に幅広いアプローチ手法を身につけるために、フィールド調査や実験と講義を適切に組み合わせることにより、学習効果を高める工夫をしています。

一般専門領域では、水管理技術、土地利用技術、そして農山漁村地域を緑豊かで生物のにぎわいのある環境とするための専門的な知識と技術を学びます。テーマ別専門領域では、修士論文や特定の研究として設定したテーマについて、科学的に解析し思考する自主的な学習能力と研究能力を養い、その検討結果を総括し発表・討論するコミュニケーション能力を身につけます。

生物環境保全学専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

教育理念

現代の高度な技術文明は、資源の乱用や環境汚染を引き起こし地球的規模で自然環境を破壊し生物の生存を脅かしています。このような時代背景の中で、本コースでは、生物学、化学、物理学などの手法を駆使して、自然の認識方法、人類活動に伴って生じる環境の攪乱が自然生態系に及ぼす影響の解析方法、環境悪化を防止する方法などに関する研究と教育を行い、地球上の生物資源や、自然環境の保全に積極的に立ち向かえる人材を養成することを教育理念としています。

教育目標

1. 地球の生物資源と自然環境の保全に関する基礎的な事項を学び、人の健康や地球環境に及ぼす影響を少なくする為の知識と技術を習得させる。
2. 地域の環境動態把握、計測技術や汚染評価システムの開発、汚染低減化を目指した新技術の創出、バイオマスの有効利活用などに関する知識と技術を習得させる。

3. 環境保全型循環社会システムの形成を目指し、国際社会と地域社会に根ざした新しい環境科学領域を開拓出来る人材を養成する。
4. 愛媛を中心とする環境保全型地域社会の構築に貢献出来る人材を養成する。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

地球の生物資源と自然環境の保全に関する基礎的及び高度な知識と、人の健康や地球及び地域の環境に及ぼす負の影響を 少なくする為の知識と技術を修得している。

2. <思考・判断>

環境保全型循環社会システムの形成を目指し、地域社会や国際社会における環境、資源、食料に関連する諸課題を高度に論理的に思考、判断することができる。

3. <関心・意欲、態度>

上記の諸課題を解決するため、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的・国際的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

地球の生物資源と自然環境の保全に関する基礎的な知識と、人の健康や地球及び地域の環境に及ぼす負の影響を少なくする為の基礎的知識と技術を有している。

2. <思考・判断>

環境保全型循環社会システムの形成を目指し、地域社会や国際社会における環境、資源、食料に関連する諸課題を論理的に思考、判断することができる。

3. <関心・意欲、態度>

上記の諸課題を解決するため、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有している。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

本専門教育コースは、生物にとって大切な自然の認識方法、各種の人類活動に伴って生じる環境の攪乱が自然生態系に及ぼす影響の解析方法、環境悪化を防止する方法などを研究し教育することによって、地球上の生物資源の保全、自然環境の保全に積極的に立ち向かえる人材の育成を目指しており、この目的に沿ったカリキュラムの構築をカリキュラムポリシーとしています。すなわち、生物学、化学、物理学などの手法を駆使して、自然の認識方法、人類活動に伴って生じる環境の攪乱が自然生態系に及ぼす影響の解析方法、環境悪化を防止する方法などに関する教育を行い、地球上の生物資源や、自然環境の保全に積極的に立ち向かえる人材を養成していきます。

農山漁村地域イノベーション専門教育コース

●専門教育コースの教育理念と教育目的

愛媛県では、戦後、農林水産業が活発に展開し、とりわけ柑橘産業、養殖漁業、林業等は全国的にもトップクラスを長年維持してきました。しかしながら、過剰生産、国際競争、価格低迷、輸入増加等により近年きわめて厳しい状況に陥っています。後継者の減少、過疎高齢化の進行により経営体が大幅に減少し、多数の地域社会が崩壊する危機があります。一方、地球温暖化問題による化石燃料からバイオマス燃料等への転換が課題となっています。このような認識から、農山漁村地域の再生と活性化のために、地域資源を管理し、組み合わせ、地域活性化・新産業創出を担うことのできる高度な専門知識と実践的対応力を身につけた人材(地域イノベーター)を養成していきます。

●専門教育コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

農山漁村地域の再生と活性化、および起業等の地域資源活用において必要な高度な専門知識と技術を習得している。

2. <思考・判断>

農山漁村地域における諸課題を発見し、その課題を論理的に分析でき、循環型社会の構築の観点から、その解決策を提案・実現することができる。

3. <関心・意欲・態度>

上記の諸課題を解決するために、地域の担い手・リーダーとしての自覚を持ち、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●専門教育コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

愛媛大学農学部・他学部、他大学の学士課程卒業生及び社会人(自治体職員、農林漁業団体職員、個人等)で学士課程卒業生と同等以上の能力を有している。

2. <思考・判断>

ある事象に対して多面的に考察し、研究課題を設定し、幅広い視点から考察・分析をすることができる。

3. <関心・意欲、態度>

農山漁村地域の再生・活性化のために地域イノベーターとしての専門性を身につけて貢献しようとする熱意と意欲をもっている。

4. <技能・表現>

農山漁村の地域再生・活性化について自分の考えを、論理的かつ明瞭に表現できる。

●専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

農山漁村地域の再生と活性化のために、地域資源を管理し、組み合わせ、地域活性化・新産業創出を担うことのできる高度な専門知識と実践的対応力養成のため、「高度な地域理解力」「情報・コミュニケーション力」「実践的起業スキル力」「生態系マネジメント力」「地域マネジメント力」「地域イノベーション力」と「インターンシップ・プロジェクト研究の現場実習」によるカリキュラム編成としています。

紙産業特別コース

●コースの教育理念と教育目的

教育理念

近年、紙産業界は経済のグローバル化の中で、国際競争、価格低迷、輸入増加等により厳しい状況にあります。また、複雑多様化する紙産業の将来に対応するためには、企業活動のさらなる発展に向けた研究開発機能の強化及び人材養成、並びに将来の幹部となり得る若手人材

の確保が必要です。

このような状況の中で、グローバルな視点で課題を考察し、かつ地域に根ざした課題解決策を考察できる知識とマネジメント能力を備えた人材を養成することを教育の理念としています。

教育目標

1. 紙産業技術・経営の深い見識とグローバルで幅広い知識・教養を備え、課題を自ら発見しその課題を自ら解決できる人材を養成するとともに、紙産業に関する技術力、商品開発力、マネジメント力、グローバルな経済感覚を持ち、紙産業の技術と経営の基礎知識を生かし多面的な応用ができる人材を養成する。
2. 紙産業界の変革や創造に主体的に取り組むスペシャリストの養成をめざし、周辺環境の変化を察知して新しい紙製品・新分野創出ができる人材を養成する。

●コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. <知識・理解>

紙産業の活性化に向けた新産業創出、及び経営的視点に基づく判断に必要な高度な専門知識と技術を習得している。

2. <思考・判断>

紙産業技術の本質の思考及び実証的な調査・研究を通じて課題を発見し、その課題を論理的に分析でき、自律的判断のもとに解決に導くことができる。

3. <関心・意欲・態度>

上記の諸課題を解決するために、紙産業の担い手・リーダーとしての自覚を持ち、協調性と高い倫理観をもって、自律的・継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. <知識・理解>

学士課程卒業生及び社会人で学士課程卒業生と同等以上の能力を有している。

2. <思考・判断>

ある事象に対して多面的に考察し、研究課題を設定し、幅広い視点から考察・分析をすることができる。

3. <関心・意欲・態度>

紙産業における様々な課題解決のために、専門性を身につけて貢献しようとする熱意と意欲をもっている。

4. <技能・表現>

紙産業の課題解決について、自分の考えを論理的かつ明瞭に表現できる。

●**専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)**

カリキュラムの概要

1. 課題の発見・解決能力を養う教育
2. 現場密着型の実践教育を行うために、専門教育プログラムと現場密着型実践教育プログラムを2本柱にしてカリキュラムを構成している。

森林環境管理特別コース

●**コースの教育理念と教育目的**

本コースは、森林管理の課題を解決し、森林保全と林業を持続的安定的発展のために、高度な森林環境管理技術や林業関連制度・安全管理に関する知識や、実践現場での指導者として即戦力となることができる総合的適用力・課題発見解決力を備え、地域の自治体の森林管理関係職員、森林管理事業体職員として、森林環境管理・森林ビジネスで活躍する高度森林管理技術者の養成を教育目的としています。

●**コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)**

育成の目的である高度森林管理技術者とは、以下の5項目を修得し、それらを基に社会貢献ができるものです。

1. <知識・理解>

GIS、GPSを使った精密森林管理技術を修得し、そのシステムを構築・運用できること。

2. <知識・理解>

森林環境管理技術を修得し、国際的な森林認証制度に対応する管理ができること。

3. <思考・判断・意欲・態度>

新たな森林管理作業を修得し、自ら作業実行を担えること。

4. <関心・意欲・地域貢献>

愛媛県地域再生計画に定める「新たな森林管理体制」を担えること。

5. <技能・表現>

森林の公的機能を修得し、持続型社会の基本を論ずることができること。

●**コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)**

1. <知識・理解>

急速に進展している高度技術を学ぶために必要な基礎学力を有し、森林管理・木材利用の専門的スキルと知識の学習、修得を希望する者

2. <思考・判断・意欲>

多面的な視点から、森林管理・木材利用における様々な事象を論ずる能力の修得に意欲のある者

3. <技能・表現・地域貢献>

実践的な森林管理・木材利用スキルと知識を活かし、多面的な視点から、地域、社会に変革をもたらす、人類の幸福や社会に貢献しようとする意欲のある者

●**専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)**

カリキュラムの概要

高度森林管理技術者養成のための専門職大学院的性格を持ち、応用・実践面を重視したカリキュラムを愛媛県林業研究センターの施設を活用して養成します。

社会人リフレッシュコース

●**コースの教育理念と教育目的**

近年、産業技術の高度化によって、農林水産業は急激な構造変化を遂げつつあり、世界的な食料・資源・環境問題の高まりの中で、農林水産業関連分野において社会人のリフレッシュ教育に対する需要が高まっています。このような社会的要請に応え、本大学院農学研究科では、社会人を積極的に受け入れ、地域社会や国際社会における食料・資源・環境に関する様々な問題を解決し、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献できる人材を養成していきます。

●**コースのディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)**

1. <知識・理解>

食料・資源・環境に関する様々な分野において個別選択したテーマに基づく必要な高度な専門知識と技術を習得している。

2. <思考・判断>

食料・資源・環境に関する諸課題を発見し、その課題を論理的に分析でき、循環型社会の構築の観点から、その解決策を提案・実現することができる。

3. <関心・意欲、態度>

上記の諸課題を解決するために、個別選択したテーマに基づく分野での担い手・リーダーとしての自覚を持ち、協調性と高い倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

4. <技能・表現>

自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するための高度なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

●**コースのアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)**

1. <知識・理解>

学士課程卒業生及び社会人で学士課程卒業生と同等以上の能力を有している。

2. <思考・判断>

ある事象に対して多面的に考察し、研究課題を設定し、幅広い視点から考察・分析をすることができる。

3. <関心・意欲、態度>

食料・資源・環境に関する様々な問題の解決に専門性を身につけて貢献しようとする熱意と意欲をもっている。

4. <技能・表現>

食料・資源・環境に関する様々な問題の解決について自分の考えを、論理的かつ明瞭に表現できる

●**専門教育コースのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)**

カリキュラムの概要

学生の研究テーマに合わせて「特別演習」や「特別実験」「履修科目の選択」を行う柔軟な指導体制により個別にカリキュラムを編成しています。